

兵庫県立フラワーセンターとシンガポール植物園（世界遺産）の 姉妹提携 40 周年記念プレ事業

シンガポール事務所

兵庫県立フラワーセンター（以下「HFC」）とシンガポール植物園（Singapore Botanic Gardens。以下「SBG」）とは、昭和 55（1980）年 1 月に姉妹提携を締結して以来、人材交流や植物交換、情報交換などの交流活動を活発に行ってきました。（SBG はシンガポール唯一の世界遺産。2015 年登録）

このたび、令和 2（2020）年に姉妹提携 40 周年を迎えるにあたり、交流を更に活性化するため、プレ事業として、9 月下旬に、両園のコレクションの中から特徴的な植物を選び、交換しました。

1 兵庫県からシンガポールへ食虫植物の贈呈（9 月 25 日）

令和元（2019）年 9 月 25 日、HFC がシンガポールを訪問し、HFC が世界で初めて人工繁殖・交配に成功した食虫植物・ウツボカズラ（ネペンテス）2 種類を SBG に贈呈。SBG からは、貴重な植物の贈呈に心から感謝する旨の謝辞がありました。

また、贈呈に先立って、HFC から食虫植物やラン等の栽培にかかる発表を行ったところ、参加者達は熱心に耳を傾けており、例えば、「イギリスで勤務していた際、PH の高いイギリスの水道水をやり続けてウツボカズラが全滅したことがあったが、HFC での栽培にはどのような水を使っているのか」との質問に対して、HFC が通常の水道水を使用している旨回答したところ、参加者たちは一様に驚いた様子でした。



【ウツボカズラの贈呈】



【SBG での発表の様様】

2 シンガポールから兵庫県へラン「マサコ・コウタイシ・ヒデンカ」の贈呈（9 月 27 日）

9 月 27 日、SBG が兵庫県を訪問して、HFC で開催された贈呈式に出席し、SBG が育成したラン類のオリジナル品種 10 種類を HFC に贈呈。HFC からは、貴重なランを受贈したので、大事に育てていきたい旨の謝辞がありました。

今回贈呈されたランの特筆すべき点は、1993 年に、当時皇太子であった天皇陛下のご成婚を記念して命名されたラン（デンドロビウム）「マサコ・コウタイシ・ヒデンカ」が含まれていることです。

SBGでは、来訪した各国の皇族や元首を中心に、その名前を冠したランを「VIP ラン」として栽培していますが、これは門外不出とされており、今回、「マサコ・コウタイシ・ヒデンカ」が海外に贈呈されたことは、極めて異例なケースで、SBGがHFCとの姉妹提携を重視している証と言えます。

なお、「マサコ・コウタイシ・ヒデンカ」については、現在全世界で、SBG、宮内庁、そしてHFCの三ヶ所にしか存在していないことになります。

HFCでは、今回の贈呈を受けて、10月10日から「マサコ・コウタイシ・ヒデンカ」をはじめとするラン類10種を大温室内で特別展示することとしています。



【ランの贈呈】



【HFCでの記念撮影】

3 所感

今回の植物交換は、両園の絆を更に強化するとともに、来年の姉妹提携40周年記念事業に大きく弾みをつけるものにもなりました。両園の間では、40周年という大きな節目を契機に、更に特色ある交流が展開されるものと期待されます。

自治体関連の国際交流には、様々な形態があり、このような交流の積み重ねにより、地域間の繋がりは深まっていきますので、クリアシンガポール事務所では、引き続き、公立施設等が行う取組も含め支援してまいります。

(池上調査役 兵庫県派遣)